

地球に愛をこめて

核兵器全廃条約の国連上程に向けて・・・

(写真の番号は下記の経緯に対応)

①イコン伝説



③国連本会議場 (N.Y.)



⑤国連ミレニアムサミット代表者会議 (タイ)



⑥インドにて



⑦愛知万博サテライト会場



⑨インド国防大臣



⑪ブルネイにて



⑫ホワイトハウスとピシオットさん



⑬カンボジア



⑭セントルシア



活動の経緯

- ①1992年 日露合作映画『イコン伝説』公開 (写真あり)
1991年のソ連崩壊に伴う混乱の中、キリストの精神によるロシアの精神復興の為、ひいては核兵器の拡散を防ぐ為という動機を持ってプロデューサーとして制作に携わった。
- ②1998年 インドが核実験を行う (写真なし)
このとき抗議のためにインドを訪問したが、そこで後に大統領となられる Hon.A.P.J.Abdul.Kalm氏にお会いし、インドの核兵器に頼らざるを得ない事情を聞く。このときから特に核兵器の問題に関心を持つようになる。
- ③2000年 国連ミレニアムサミット宗教者精神指導者会議参加 (写真あり)
日本代表団の一員として参加し、その中の有志と共に「宗教者と科学者の合同会議」の開催を呼びかける。
- ④2000年 ハノーバー万博 (写真なし)
同会議の呼びかけを日本の宗教指導者が行う。
- ⑤2002年 国連ミレニアムサミット代表者会議参加 (写真あり)
2000年に開催を呼びかけた上記会議を環境問題の分科会にて提案する。これに対して議長から「国際会議の開催は簡単ではないが出来る限り努力する」との言葉を頂いた。
- ⑥2004年 大統領より愛知博覧会で開催予定の事業に向けてメッセージを頂くためにインドを訪問 (写真あり)
Hon.A.P.J.Abdul.Kalm大統領より宗教の和解・科学技術の平和利用といった内容のメッセージを頂く。
- ⑦2005年 愛知博覧会にて万博パートナーシップ事業『地球に愛をこめて』開催 (写真あり)
「環境問題を通して世界平和を考える」というテーマでシンポジウムを開催。上記合同会議を環境問題というテーマで開催していく事を再提案すると共に、『地球に愛をこめて』という合言葉で世界平和のためのメッセージを発信していくことを宣言する。
- ⑧2006年 京都で開催されたWCRPに参加 (写真なし)
平和へのメッセージとして核兵器全廃条約上程運動の素案を作成し、参加者に提案する。
- ⑨2007年 インド大統領と国防大臣に核兵器全廃条約上程運動への協力をお願いする手紙を送る (写真あり)

- ⑩2008年3月 インドを訪問 (写真なし)
インド最大のヒンズー教団指導者アショク・シンガル氏から核兵器全廃条約上程運動に賛同のサインを頂く。
- ⑪2008年7月 ブルネイ訪問 (写真あり)
平和のためのシンポジウムでこの運動の内容を発表し、ブルネイ王国初代首相ベンギラン・ヨソフ殿下に賛同のサインを頂く。
- ⑫2008年8月 アメリカのGlobal Peace Festival に参加 (写真あり)
ホワイトハウスを訪れた際、ホワイトハウス前の公園で20数年間核兵器廃絶を訴え続けてきたコンセプション・ピシオットさんに賛同のサインを頂いた。
- ⑬2008年9月 カンボジア訪問(開発支援のボランティア) (写真あり)
国連の国際平和の日に合わせて開催された「国際平和の日の集い」に参加し、核兵器全廃条約の国連上程に向けての活動を紹介した。
- ⑭2008年12月 セントルシア訪問(ボランティア) (写真あり)
副首相をはじめ閣僚の方々に平和のメッセージとしてこの運動を紹介し賛同を募った。

海外ニュース



オバマ大統領プラハで核兵器廃絶を訴える

2009年4月5日、チェコのプラハにてオバマ米大統領が演説を行った。米国は核兵器を使ったことのある唯一の国としての同義的な責任があると述べ、①ロシアとの戦略核兵器削減条約における大胆な新合意を目指すこと、②包括的核実験禁止条約の批准による核実験の禁止、③核不拡散条約、国際原子力機構などを強化し、核物質を安全な管理体制下に置くべきこと、など核廃絶に向けての決意を語った。

これらは私たちがまさに進めて行きたい内容でもあり、核廃絶への機運が高まることを期待したい。